信州子育て応援プロジェクト

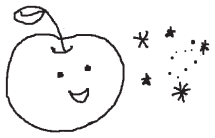
長野県で子どもを育てよう vol.06

INTER VIEW

伊那市長
白鳥　孝さん

宝島社発行の『田舎暮らしの本』で2年連続「子育て世代にぴったりな田舎」部門、日本一に選ばれた伊那市。温暖な気候の伊那谷(INAVALLEY)に位置し、豊かな自然環境に恵まれているほか、教育や文化にも力を入れています。

今回は伊那市長の白鳥孝さんにご登場いただき、なぜ伊那市が「子育て世代にぴったりな田舎」部門、日本一に選ばれたのか、その理由と、伊那市で子育てするメリットなどをお聞きしました。



―市長は「子育て世代にぴったりな田舎」部門、日本一に選ばれた理由は何だと思いますか?

何でしょうね、わたしも職員もその結果を聞いて驚いたんですよ(笑)。わたしが思うに1番は保育内容が評価されたんじゃないかと思います。保育園で楽しく遊んで給食食べて帰りますというだけではなく、大きな声であいさつができる、靴をきちんとそろえることができる、お箸を上手に持てる、そういった当たり前のことができる子どもに育てましょうと。それともうひとつは、子どもたち1人ひとりがいろいろなものに興味をもてるように、保育士が促し、さらにその興味をもっと大きく育ててあげるということですね。ゆくゆくはそういったことが学習や教育につながっていくので、保育園の段階できちんとやってもらっています。

伊那市の子どもたち全員のお父さん

―おもしろがる・不思議がる・知りたがる・見つけたがる・試してみたがるなど意欲を持って行動できる「がるがるっ子」という取り組みもおもしろいですよね。

好奇心を育てることはとても大事なことです。それともうひとつはよく観察するということです。子どもたちには、よく物事を見ないと本質はわからないということを経験を通して学んでもらっています。各保育園でシンボルツリーを決めてもらい、子どもたちが1年中観察するんです。芽吹いて花が咲き、鳥や虫が来たり、葉っぱが色づき、冬になったらどうなるかと、観察する取り組みを、伊那市全部の保育園で行っているんですよ。

―植物だけでなく生物を愛でる心も育まれますよね。

また、保育士自ら勉強して資格をとるということをすすめています。木のおもちゃのアドバイザーの資格やネイチャーゲームの資格など。保育士が資格をとり、子どもたちにきちんと伝えるということに力を入れています。また、近所のお年寄りの力も借りて、農作物を作ったり、いろいろなお話しを聞かせてもらったり、昔の遊びを教えていただいたりしています。これは(市長の写真、右手にある絵本)伊那市の保育士たちが、地元のお年寄りたちに昔の遊びを教えていただき作った絵本です。絵を描いたのも保育士、編集も全部保育士だけで行ったんですよ。

―すごい!保育士さんたちの行動力もすごいですね。

そういうことでも、伊那市の保育は非常に中身が濃いとわたしは思っています。また、伊那市には合併当時27の保育園があったんですが、非常に老朽化していたのでそれを集約し、小学校の横に作ることにしたんです。小学校が身近になることで保育園と小学校の教育システムのギャップを回避できますし、避難訓練などでも保育園の子どもたちを6年生が迎えに行くというようなことができるんです。特に画期的だったのは、保育園と小学校が連携し、1年生がどういうところでつまずくかということを、実際に保育士が観察するという取り組みです。毎年交替で保育士を派遣して、小学校1年生の教室で一緒に勉強するんです。そして1週間に1度園に戻り、どんなところが課題かなど、状況をみんなにフィードバックして対応していくということを繰り返しました。またその逆で、学校の先生にも保育園に来てもらって勉強してもらいました。

―それは画期的、かつ実践的で、すばらしい取り組みですね。

保育士が小学校で勉強するという取り組みは県下初です。国でも珍しいと思いますよ。保育士の人数については、国が定める基準よりも、手厚くしているクラスもあります。

―そういう取り組みを、市長がすべて把握してらっしゃることがすばらしいですね。

子どものころから、ピコピコ電子

信州ﾃﾞ子ﾄﾞﾓヲ育ﾃﾙ_1605.indd　4　　2016/05/17　11:02:30

音がするようなオモチャの中にいる生活にならないように、読み聞かせや、自然の中にどっぷりとつかって、風の色や雲の動きを観察したり、そういうことに時間を使ってもらいたいと思っています。身近な自然があるところにはどんどん連れ出して行く。遊びなんて子どもたち自身で勝手に作り出しますから。大人は子どもの安全だけきちんと見てあげていればいいんです。あと歌ですね。歌手の由紀さおりさんにおいでいただき、子どもたちとお母さんに、日本語の美しさを伝えてもらうという取り組みを行っています。

ーそれは親御さんにとってもうれしい取り組みですね。

本物を小さいうちから見せる聴かせるということはとても大事なことですよね。本物の自然、あとは文化ですね。バーチャルな世界では絶対ダメなんですよ。伊那の人々には、絵や音楽もすばらしいものにふれてほしいと思っています。

ー子どもは見たもの聞いたもので人格を作っていきますよね。

あと本物といえば農業ですね。伊那市は近所の農家さんに支えてもらって、大きな田んぼや畑を使い、子どもたちも本格的な農業を一緒に行っています。種をまいたり、苗を育てるという過程を経て、収穫をし、調理をして、感謝をしていただく。この工程がすごく大事で、手間をかけて育てたものに対し〝感謝していただく〟ということを、自分の体験を通し理解できるようになるので、心から感謝できるようになるんです。このように小さいころから農業を体験することで、好き嫌いが減って、残食が大いに減るという効果もありました。

ー『みはらしファーム』など、小さいころから農業体験をする施設も充実していることも大きいのでしょうね。

そうですね。またもうひとつ大事なことは郷土愛です。「こんな田舎…」「こんな山の中で…」とか、大人が子どもたちに言っていたら、子どもは絶対地元には残りません。自然災害は少ないし、農業はできる、水も空気もおいしい、働く場所だってあるし、リニアが通れば名古屋まで1時間以内、東京までも1時間ちょっとだよと。大人が子どもにこんないいところないよという話を、繰り返し続けることが大事ですね。

ーありがとうございます。では最後に子育て世代に向けてひとことお願いいたします。

みなさんにお伝えしたいのは〝伊那で生きる〟ということです。ここで生きる。そしてここで暮らし続ける。ここで生まれた方はもちろん、外から来たみなさんも、一緒にずっと伊那で暮らしていきましょう。

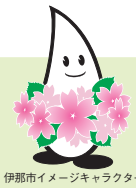
子どもたちとふれあう市長

子育て支援センターにて親子に声をかける市長

冬に里山で自然を体験する『冬の自然観察会』に毎年市長も参加

＊さすが伊那市民みんなのお父さん。現場に寄り添い、伊那市の子どもたちの未来を〝本気〟で考えていることがよくわかりました。「子育て世代にぴったりな田舎」部門、日本一に選ばれたのも納得です！

伊那市の取り組み。詳細は次ページへ！



伊那市イメージキャラクター
イーナちゃん

伊那市が子育て世代にやさしい理由（ワケ）

ココがポイント！ 地域と一体となり子育て世代を支援 恵まれた自然環境と教育が実現！

独自の教育文化	伊那小学校…通知表や時間割りがなく、野外活動を総合教育に活用。新山小学校…小規模特認校。朝は各班に大人が同行しキノコ狩りをしながら登校するなど野外活動が盛ん。給食も自分たちで育てた野菜を使い学校で調理。
子育て世代を手厚くサポート	地域によって出産祝い金あり（地域により、さらに充実）。中学生までの医療費無料、高校生一部無料。市内4カ所の子育て支援センターには保育士が常駐。乳児には木の玩具、絵本が贈られる。
田舎暮らしのモデル地域	新山地域は同モデル地域初の認定地。また長谷溝口地域も新たに指定され、市が住民たちの地域活性化の活動をサポート。就職も充実し、将来性が高い。

2年連続日本一を獲得！

「田舎暮らしの本」
2016年2月号（宝島社発行）

信州ﾃﾞ子ﾄﾞﾓｦ育ﾃﾙ_1605.indd 5 2016/05/17 11:02:33